

巻頭言

「水素エネルギー社会」の実現に向けて

本田技術研究所 社友 梶谷 郁夫

21世紀がスタートして半年が過ぎましたが、首記テーマについて巻頭言として述べさせていただきます。

20世紀末の現代文明のエネルギー源は、有限な化石資源（石炭、石油、天然ガス）とウラン資源に支えられてきました。しかし、21世紀においてはご存知のように「人口増加・経済成長」、「エネルギー枯渇」、地球温暖化（CO₂）、大都市大気汚染（CO・HC・NO_x）、酸性雨（NO_x・SO_x）等「地球環境問題」のトリレンマの解決が人類課題の一つとして、各分野で研究・検討が進められています。

特に、発展途上国を中心に経済成長、人口増加が予測されていますが、中でも東アジア（中国・アセアン諸国・インド）は急激な経済成長が20世紀終盤から始まっています。その結果このトリレンマの解決は、東アジアの緊急のテーマになると予測されます。

21世紀初頭におけるアジアのエネルギー問題を展望しますと、2010年には、東アジア諸国の石油輸入の中東石油への依存率は、1996年；70%、2000年；80%、2010年；95%に達すると予測されています。中東石油が世界の資源埋蔵量の約70%弱を占めている事を考えると、（また今後新たな化石資源が採掘されるとしても）東アジアのエネルギー問題の解決が、人類課題の解決の大きな柱になると考えられます。

水素エネルギー社会への転換こそが、このトリレンマ解決策の大きな一つの柱になると想定されています。

水素エネルギー社会への転換のためには、水素を「作る」・「貯める」・「使う」の三部門同時の技術開発が必要であり、そのためには21世紀のキー技術である、IT・バイオ技術を包含した複合的な、産・官・学の協力と強力なリーダーシップが望まれます。近未来、アジアのトリレンマ問題解決のために、この水素エネルギー社会への転換を命題として、アジアのリーダーとして、日本が中心的な役割を果し、同時に日本の産業復興に役立つ事が望まれます。

輸送部門に携わる一員としても、世界の自動車保有台数の増加を考えると、この水素エネルギー社会への転換は使命であり、その為の技術開発を積極的に推進している所です。